

# lambdaj における GT フォントサポート

A.K.

2001年1月,2001年8月

## Contents

1	始めに : \UGT{num}{unicode} と \GT{gtfontnumber}	1
2	簡単なサンプル	2
3	Line breaking のテスト	2
4	その他のコマンド	3
5	Type1 フォントの作成	3
6	Preview	4

## 1 始めに : \UGT{num}{unicode} と \GT{gtfontnumber}

このドキュメントは lambdaj 自身でタイプセットしてあります。lambdaj において GT フォントをサポートしました。使用法は \UGT{num}{unicode} です。ここで、num は GT フォントを区別する指票で、01, 02, 03, 04, 05, 06, 07, 08, 09, 10, 11, k1, k2 のいずれかを指定します。それぞれの場合に gt200001.ttf, ..., gt200011.ttf および gt2000k1.ttf, gt2000k2.ttf を使用することになります。また、unicode は対応する文字の Unicode です。16進の大文字(小文字はだめ)で指定して下さい。欲しい文字の Unicode は Windows 2000 application の“文字コード表”でわかります。また適当な表で欲しい文字の Shift-JIS コードがわかったら、簡単なプログラム sjis2uni によって Unicode を知ることができます。sjis2uni は

```
sjis2uni sjis1 sjis2 sjis3 ...
```

のようにして使用します。例えば

```
sjis2uni 9bf5 9da9 8fc1
```

とすれば

```
9BF5 ---> 9EBC
9DA9 ---> 64E0
8FC1 ---> 6D88
```

とコンソールに表示されます。また `\UGT{num}{unicode}` なる使用法は若干不便なので、`\GT{gtnumber}` (`gtnumber` は 000001 から 067547 までの GT フォント整理番号) なるコマンドも使えるようにしています。このコマンドは plain corporation の本田知亮さんが公開されているテーブルを利用して実現しました。まずテーブルで与えられている Shift-JIS コードを Unicode に変換し、次に 000001 から 067547 までの GT フォントを、000001 から 050000 までと 050001 から 067547 までの二つに分け、前者を一つの大きな Omega フォント `ugttotlo`、後者を同じく `ugttothi` と名づけ、前述の表からフォントマッピング情報を持つ `ovf` (`ugttotlo.ovf` and `ugttothi.ovf`) を作成しました。これらのソース (`ugttotlo.ovp` and `ugttothi.ovp`) は、パッケージサイズを減らすために入れていません。`gtnumber` は十進数で指定します。先頭の一個以上の 0 は入れなくてもかまいませんが、正式な整理番号は入れるもののようですから、入れておくほうが良いでしょう。`\UGT{num}{unicode}` コマンド、および `\GT{gtnumber}` コマンドを連続的に使用した場合の line breaking をサポートしています。`\lambdaj` 全般について言えることですが、`\verbatim` 環境では日本語を使用しないで下さい。また一般に `\usepackage{omega}` を付けておいて下さい。例えば `\verbatim` 環境は `\usepackage{omega}` のもとでしか使えません。

## 2 簡単なサンプル

次の一行は \GT{gtnumber} の形式でソースに入れたものです。

鸛 鸛 齋 簋 殿 齒 弦

次の例は、愛知教育大学の堀田さんのドキュメントから採用させてもらったものです  
`\UGT{num}{unicode}` コマンドで入力してあります：

王 泉 泉 泉 王 々 雲 雲 雲 雲 囍 囍 了 雲 雲 雲 金 南 南 南 南 風 龍 龍 龍 龍 人 串 春 春 春 王

### 3 Line breaking のテスト

[illegible]

## 4 その他のコマンド

- この文章は msmmincho を使用しています。
- この文章は gt200001 を使用しています。

## 5 Type1 フォントの作成

- sh 互換 shell 使用時には ./maket1
- Windows 95/98 の MS-DOS プロンプト、或いは Windows NT/2000 のコマンドプロンプト使用時には maket1

```
odvips -Pomj foo
```

によってフォントを埋め込むことができます。-Pomj オプションが無い場合は ttf2pk が自動的に働いて、PK フォントで PS を作ります。ファイルサイズは、msmincho と msgothic で約 10MB、GT フォントが約 42MB、合わせて約 52MB となります。

## 6 Preview

lambdaj の作る dvi は 3.11.6 以降の dviout for Windows で、快調に preview することができます。必ず、Option--->Setup parameters...--->Font2---> OnDemand をオンにしておいて下さい。odvips で作成した PS を gsview32 で preview してもよいでしょう。